

Ⅱ．研修別報告

4．養護教諭のスキルアップと 養護教諭像の醸成を目指した学びの会

養護教諭のスキルアップと養護教諭像の醸成を目指した学びの会

キーワード：養護教諭 スキルアップ 現職研修

I. はじめに

養護教諭には、学校という場でその職務を遂行するための様々な能力が必要とされる。養護教諭は、各学校に一名の配置である場合が多く、その職務内容は、校種、勤務学校の規模などにより大きく異なる。さらに、法制度の改正、時代のニーズにより職務内容を変えることや、国・県の方針を意識することも求められる。職務を遂行する過程で生じる課題について、小中学校では、近隣校との交流の機会（地域の養護教諭部会など）があるが、高等学校では、こうした機会も少ない。さらに高等学校では、生徒の生活地域は広域となり、扱う健康問題等も複雑になるため、より一層、相談者を得にくく、悩みや葛藤の共有も難しい状況となっている。このように、養護教諭が職務遂行において抱える悩みや葛藤は多様であり、さらにそれらを他者と分かち合うことや、十分な経験を持つ養護教諭への相談ができにくい現状がある。

岐阜県において養護教諭に対する現職教育としては、新規採用研修・6年目研修・中堅教員資質向上研修等が行われているが、一般教諭の研修に比べ研修回数等が少ないことや、指導養護教諭が身近にいない状況での研修になっている。職務遂行において抱える悩みや葛藤、課題の解決が研修の場だけでは解消できていないのではないかと考えられる。本学においても、卒業者交流会が開催されているが、養護教諭の卒後支援には、養護教諭の職務事情、養護教諭の悩みや葛藤に特化したディスカッションや、ベテラン養護教諭からの助言、そしてネットワークづくりまで視野に入れた支援が必要であり、現行の卒業者交流会では各々の課題を解決するまでには至っていない現状がある。

また、新規採用後、養護教諭としての経験を一通り終えた卒後4～6年目にあたる時期には、転任による職務変化を経験する時期であり、自身の養護教諭像を模索し始める時期でもある。この時期、各養護教諭にはスキルアップや、目指す養護教諭像の再検討が求められる。しかし、養護教諭自身に向上意欲があっても、前述した養護教諭の職務の特性から、スキルアップにつながる方法が見出せず、自分が描く養護教諭像を定めにくい現状がある。その結果、向上意欲の低下や、養護教諭の魅力さえも見失う場合も生じている。

これらのことから、卒後1～6年目となる養護教諭が、職務における悩みや葛藤を話し合い、またベテラン養護教諭の助言・講義を受けることで、自分自身の課題と今後の目標を見つけ、より広い視野で養護教諭の在り方を検討する機会とし、現職教育の充実にもつなげたい。

II. 事業担当者

本事業は、以下の教員で実施する。

育成期看護学領域：長瀬 仁美 機能看護学領域：松本 訓枝

III. 事業（研修会）の企画

1. 養護教諭学びの会の開催

1) 目的

卒後1～6年目となる養護教諭が、職務における悩みや葛藤を話し合い、またベテラン養護教諭の助言・講義を受けることで、自分自身の課題と今後の目標を見つけ、より広い視野で養護教諭の在り方を検討する機会とする。それにより、養護教諭としてのスキルアップに向けた意欲を養う。また将来的には、自主的な勉強会等へと発展することを目指す。

2) 対象

経験年数1～6年目の養護教諭。希望があれば、卒業校・経験年数に問わず参加可能とする。本学の卒業生を含む、経験年数1～10年目程度となる養護教諭を対象に実施案内を送付し参加者を募った。今年度は県内全域に案内を送付した。

3) 開催場所 オンライン Zoom を使用して実施

4) 開催回数 年2回 1回3時間程度

オンラインで学びの会を2回開催した。参加の希望者に職務に関する感想（悩み・葛藤を含む）、今後学びたいことを募集した。研修時間は1回あたり3時間程度とした。実施内容は以下に示した。

① 自己紹介

② ベテラン養護教諭の講話

- ・卒後1～6年目養護教諭の悩みや葛藤に関わる具体的な実践内容。
- ・ベテラン養護教諭が実践の中で培った養護教諭としての理念。

③ 悩みや葛藤、解決の方法等についてディスカッション。

グループ編成は2通りとする。

- ・経験年数ごとに分かれた養護教諭とベテラン養護教諭、大学教員によって構成する。
- ・経験年数混在（ベテラン養護教諭含む）養護教諭、大学教員によって構成する。

- ④ 終了後アンケートを実施し、本会参加の感想、本会参加による仕事への意欲の変化、本会への希望などについて意見を集める。
- ⑤ 教員とベテラン養護教諭で学びの会の成果や今後の方針について意見交流する。
- ⑥ 評価:参加者による終了後のアンケート (Forms で実施)・ベテラン養護教諭との振り返りにより評価を行う。

IV. 研修会の実施方法・内容・結果

1. 実施方法・内容

1) 第1回 開催日時: 令和2年8月22日(土) 13:30~16:30

13:00~13:20 オンライン接続確認

13:20~13:30 開会

○テーマ 保健教育のスキルアップを目指して

「心の健康教育の実践」

講師 大垣市立東中学校 養護教諭 安田 望 氏

「保健教育一指導案と資料、その実際」

講師 関市立瀬尻小学校 養護教諭 山田 美由紀 氏

15:10~16:20 オンラインミーティング

グループディスカッション・まとめ

2) 第2回 開催日時: 令和2年12月12日(土) 13:30~16:30

13:00~13:20 オンライン接続確認

13:20~13:30 開会

○テーマ: 校種の異なる養護教諭の経験から、With コロナの時代の養護教諭の在り方を考える

「チーム学校の一員として子供たちの心と体を守る ~熊本震災派遣の経験から~」

講師 岐阜大学教育学部附属小中学校 養護教諭 浅野 綾子 氏

「校種の違いにおける養護教諭に求められる職務の工夫

~高校・特別支援学校の勤務の経験から~」

講師 岐阜県立羽島高等学校 養護教諭 板津 まりな 氏

「新型コロナウイルス感染症対応の中での養護教諭の役割」

講師 羽島市立中島小学校 養護教諭 首藤 めぐみ 氏

15:10~16:20 オンラインミーティング

グループディスカッション・まとめ

2. 研修会の実施結果

1) 参加者の状況

平成28年度から令和2年度までの参加者数を表1に、令和2年度参加者数の校種・経験年数別参加者数及び本学卒業者の参加者数を表2、表3に示す。(講師・ファシリテーター等も含む)

表1 養護教諭学びの会参加者数(平成28~令和2年度) 人

		合計	1~3年	4~6年	7~9年	10年以上
平成28年度	第1回	16	7	5	1	3
	第2回	25	16	5	2	2
平成29年度	第1回	16	5	2	2	7
	第2回	17	6	6	3	2
平成30年度	第1回	22	8	11	3	0
	第2回	24	11	3	4	6
令和元年度	第1回	19	3	7	5	4
	第2回	25	6	7	5	7
令和2年度	第1回	21	7	4	2	10
	第2回	16	3	1	5	7

表2 令和2年度 第1回養護教諭学びの会参加者数 人

	合計	1~3年	4~6年	7~9年	10年以上
小学校	10	6(5)		2	2
中学校	7	1(1)		5(1)	1
義務教育学校	2		1	1(1)	
教育委員会	2				2
合計	21(9)	7(6)	1(1)	8(2)	5

表3 令和2年度 第2回養護教諭学びの会参加者数 人

	合計	1～3年	4～6年	7～9年	10年以上
小学校	7	3(2)		1	3
中学校	3			1(1)	2
義務教育学校	2		1	1(1)	
高等学校特別支援学校	2			2(1)	
教育委員会	2				2
合計	16(5)	3(2)	1	5(3)	7

*合計（ ）内の数字は、本学卒業者の参加人数

3. 参加養護教諭の評価

1) 第1回

- (1) 今回の研修会のテーマについて
よかった (100%)
- (2) オンラインでの研修について
大変よかった (41%)、良かった (41%)、少し不安があった (18%)

2) 第2回

- (1) 今回の研修会のテーマについて
よかった (100%)
- (2) オンラインでの研修について
大変良かった(25%)、良かった(75%)

4. 参加養護教諭の意見・感想

1) 第1回

○養護教諭のスキルアップ

- ・養護教諭として働く実際のイメージや、仕事内容について知る機会になり、貴重な経験が出来て良かった。
- ・養護教諭の仲間で、実践を交流すると、内容が深まることに加え、実践を聞いた仲間も、実践の術を身に付けることができ、改めて研修会が有意義であると感じた。
- ・講師の先生方のマインドや、考え方、養護教諭としての在り方といった、自分のモチベーションにつながる話が聞けたことが本当に嬉しかった。
- ・経験がないため、何から手をつければいいかも分からなかったが、少しでも子どもたちに残るものを作っていけるように日々精進していきたいと感じた。
- ・これからもっと勉強して知識を身に付けるとともに、どのような養護教諭が子どもにとって必要か考えてみようと思った。
- ・指導主事からの話にはドキッとすることもあり、だんだん慣れが生じてきている自分に気合いを入れることもできた。
- ・講話から自分もそんなことを学校で実践できたらと、意欲を高めることができた。
- ・毎回新たな学びや気づきがあり、私にとって大変貴重な学びの場となった。
- ・ベテランと言われる年齢だが学ぶことは本当に大切だと思った。
- ・今年は初任研も含めて、なかなか他校の方とつながることができず、これでいいのかと不安な毎日だったので良い機会になった。
- ・育休からの復帰が迫っているので参加できよかった。

○保健教育

- ・保健教育においては、それぞれの発達段階に合わせた教育が必要だということ、そして、身近な話題を取り入れることで、子どもたちが主体的に考えられるように導くことが大切なのだ実感した。
- ・心の健康教育への養護教諭の関わり方について、緊張状態からの緩和(脱力、力の抜き方)を指導するなど、体の機能を知っているからこそできる指導内容で、普段の保健室来室時でもやってみたいと思った。
- ・指導案や教材等、明日から生かせる具体的な内容だったので、今後の教育実践に生かしたい。
- ・性に関する指導に命の大切さや成長の特徴の理解を促すことは、お互いを尊重し、思いやる姿勢を育成することにつながり、とても参考になった。
- ・性に関する指導において、男女一緒に指導を受け、命の大切さやお互いの成長の特徴を理解する時間を共有することは、お互いを尊重し、思いやる姿勢を育成することにつながり、とても参考

にさせていただきたい実践だと感じた。

- ・保健教育は、やりっぱなしになってしまい、自分の中で整理したり、評価の観点をまとめたりしていませんでした。同じ観点で指導を積み重ねることによって、その学校の校種や規模など、様々な場面に汎用でき、自分の実践が高まっていくと感じたので、実践したい。
- ・保健教育のやり方やコツみたいなものがわかってよかった。
- ・これまでの指導で積み上げてこられた財産を見せていただき、「なぜ今この保健教育をするのか」「日常にどうつなげるのか」など大切にしたいことを学ぶことができました。教材も参考になりました。日々の執務の中でうまく時間を見つけて作成してみたい。
- ・学習指導要領を読む癖をつけて、小中高のつながりを大切にしていきたいと思います。

○新型コロナウイルス感染症対応

- ・ベテラン養護教諭の新型コロナウイルス対応における危機意識の高さを学んだ。
- ・最悪を想定して、保健室がクラスターの場合とならないために、また児童生徒を守るために、工夫して様々な取組をされていることを知り、まずは自分自身の危機意識をもっと高め、勤務校の現在の取組を見直す必要があるのではないかと感じた。早速、改善したい。
- ・現在、最も優先度の高いコロナ感染症対策についても意見交流でき、明日からの活動に活かせるものであった。
- ・実際の保健室の様子や対応の様子、コロナ対策を具体的な資料をもとに説明くださり、明日にでも実践したいと思える内容だった。
- ・コロナ対応について確認でき、他の学校だけでなく、他の市町村の様子が分かったことも、参考になった。
- ・保健室でのコロナ対策が徹底されており、2学期から私ももっときちんとしていきたいと思った。
- ・感染症対策について、自分は対策がまだまだ甘いことがわかった。
- ・新型コロナウイルス感染症の対応を詳しくお聞きすることができ、すぐにでも実践に生かしていきたいと思った。

○オンラインでの研修の機会についてのご意見

- ・対面で交流する機会がない中で、学びを深めることができ、参加してよかった。
- ・オンラインの研修なんて難しいとずっと思っていたが、やってみて良かった。
- ・リモートなので意思疎通が難しいかと思ったが、声は聞き取りやすく、交流もしやすかった。
- ・ビデオをオンにするように声をかけていただけたので、安心して話せた。
- ・オンライン研修会であったため、遠方からも参加しやすかった。
- ・初めてのオンラインで、設定や接続に手間取った。事前に一度接続して確認しておくべきだった。
- ・初めて zoom を使ったため、システムが理解できず、音声は一切聞こえず、途中で退室した。
- ・zoom でうまくマイクが繋がられず、話しができずに終わってしまった。

2) 第2回

○養護教諭のスキルアップ

- ・校種の違う先生方の学校での取り組みを聞くことができ勉強になった。
- ・経験年数に関わらず、学びがたくさんあった。自分の対応をバージョンアップできるようになりたいと強く感じた。
- ・研修会の前には自らの課題や疑問を明確にして、それを解決できるように研修会に参加し、研修後は自分の中で消化することが大切であると思った。
- ・今回は、たくさんの先生の話や意見を聞くことができた。今日の学びを学校や市内に還元できるようにしたいと思った。

○新型コロナウイルス感染症対応

- ・コロナ対応の話が聞きたくて参加を決めた。自分の学校でやっている事を振り返りながら聞かせていただき安心した。そして、月曜日に「やってみよう」と思えるヒントを頂く事ができた。
- ・特に、今の自分の課題であるコロナ対応について、実際の写真の提示や子どもの目線での対応の紹介があり、勤務校に置き換えて対応を見直すことができた。
- ・各学校で中心となってコロナ対応をしてみえる養護教諭の先生方と交流し、元気をいただくことができた。

○オンラインでの研修についてのご意見

- ・zoom をやった事がなかったので、始めるまで不安だったが、なんとかできた。
- ・オンラインの研修だったが、通常の研修会同様、多くのことを学ぶことができた。

V. 成果

1. 看護職の研修としての有用性について

1) 養護教諭学びの会参加者の学びの明確化

令和2年度の研修内容について検討する段階では、表4 今後学びたいこと（令和元年度第2回アンケート結果より）を参考にした。児童生徒が主体的に学ぶことができる保健教育の実践について学びたいというニーズが高かったことから、保健教育をテーマにした。また、令和2年度は、全国的な臨時休校措置後、学校での新型コロナウイルス感染症対応を求められる中、養護教諭の多くが、他校の取組や、経験者の取組を学びたいというニーズもあったことから、新型コロナウイルス感染症対応の中で求められる養護教諭の在り方を交流していくこととした。

表4 今後学びたいこと（令和元年度第2回アンケート結果より）

カテゴリ	要約
保健・安全管理 (救急処置)	健康診断の実施方法の見直し 応急処置の具体的な方法、食物アレルギーの給食における対応(保護者・児童との日々のやりとり)、子どもへの対応、ヒヤリハット事例の交流
保健室経営	保健室経営計画の作成、保健活動の実践と評価 保健室来室状況などについて管理職や職員全体にどのように伝え、連携していくか、来室記録の記録方法・保存(データや紙媒体)、その活用方法
保健教育	児童生徒が主体的に学べる保健指導の実践、アクティブラーニングを取り入れた保健教育、心の健康教育の実践交流、保健教育の他教科・活動とのつながり
健康相談	保健室登校への対応、特別な支援を要する児童生徒への対応、教育相談事例

講師にも事前に連絡し、学びたい内容についてもできるだけ深まるよう講話内容を工夫していただいた。全体交流では、講師やファシリテーターからの指導・助言を加え、研修が有用となるよう工夫をしてきた。

2) 学びの内容

参加養護教諭の意見、感想から、養護教諭像の醸成につながる学びの内容を、【養護教諭の職務の振り返り】【養護教諭としてのスキルアップの必要性】【養護教諭像の醸成】【ベテラン養護教諭の意識の高さ】【実践につながる具体的な内容】に分類した。詳細を表5に示す。

表5 「養護教諭学びの会」学びの内容

	学びの内容
養護教諭の職務の振り返り	養護教諭として働く実際のイメージや、仕事内容について知る機会になり、貴重な経験が出来て良かった。参加することで、自分を見つめ直すことができ、気もちも軽くなり先に進める。
	毎回新たな学びや気づきがあり、私にとって大変貴重な学びの場となった。
	経験年数に関わらず、学びがたくさんあった。自分の対応をバージョンアップできるようになりたいと強く感じた。
	指導主事からの話にはドキッとすることもあり、だんだん慣れが生じてきている自分に気合いを入れることもできた。
養護教諭としてのスキルアップの必要性	講話から自分もそんなことを学校で実践できたらと、意欲を高めることができた。
	養護教諭の仲間と、実践を交流すると、内容が深まることに加え、実践を聞いた仲間も、実践の術を身に着けることができ、改めて研修会が有意義であると感じた。
	経験がないため、何から手をつければいいのかも分からなかったが、少しでも子どもたちに残るものを作っていけるように日々精進していきたいと感じた。
養護教諭像の醸成	同じ観点で指導を積み重ねることによって、その学校の校種や規模など、様々な場面に汎用でき、自分の実践が高まっていくと感じたので、実践したい。
	講師の先生方のマインドや、考え方、養護教諭としての在り方といった、自分のモチベーションにつながる話が聞けたことが本当に嬉しかった。
	これからもっと勉強して知識を身に付けるとともに、どのような養護教諭が子どもにとって必要か考えてみようと思った。
ベテラン養護教諭の意識の高さ	ベテラン養護教諭の新型コロナウイルス対応における危機意識の高さを学んだ。
	児童生徒を守るために、工夫して様々な取組をされていることを知り、まずは自分自身の意識をもっと高め、勤務校の現在の取組を見直す必要があるのではないかと感じた。

実践につながる具体的な内容	現在、最も優先度の高いコロナ感染症対策についても意見交流でき、明日からの活動に活かせるものであった。
	指導案や教材等、明日から生かせる具体的な内容だったので、今後の教育実践に生かしたい。
	今日の学びを学校や市内に還元できるようにしたいと思った。

3) 研修テーマ・研修内容の評価

研修テーマ・研修内容については、よかったという評価を概ね得ており、次年度への参加意欲が高まった研修会にもなった。また、今年度は、オンライン開催での経験年数混在のグループ交流であったが、養護教諭の職務の振り返りやスキルアップにつながっていることが、意見感想からも伺えた。また、参加者の疑問点や知りたいことには、答えられるよう講師とその内容を共有するとともに、今回参加いただけた県教育委員会の2名の指導主事が新型コロナウイルス感染症に関する衛生管理の在り方と養護教諭の成長段階にあった職務の進め方についての的確な指導助言があったことから、解決できてよかった、参加してよかったという評価も得ており、グループ交流や全体交流を工夫することができた。

2. 参加看護職の意見と成果

今年度は、新型コロナウイルス感染症対策・対応として養護教諭に何ができるのか、今行っていることに間違いはないのかというニーズが高かった。そのことを踏まえた上で、参加養護教諭が、自らの実践を省察した上で、ベテラン養護教諭の助言を受けたことで、自身の今後の目標を見つける機会となった。ベテラン養護教諭が、ある程度の実践を積んでいる中で感じる課題と、経験年数の浅い養護教諭が感じる課題には、若干の差があることは予想されたが、視点を示すことにより学び方を変化させていることが講話後のディスカッションから確認された。未曾有の課題への対応に追われる中であっても、児童生徒の健康安全を第一に考えながら、常に養護実践上の課題意識を持ち続け、学校保健の中核を担う養護教諭としてどうあるべきかを真摯に求め続ける姿を垣間見ることができた。

VI. 教員の自己点検評価

1. 実践の場にと与えた影響

養護教諭学びの会で実践を振り返る視点を学ぶことができたことで、その後、校内の実践を意識的に見ることができるようになったという意見があった。自身の職務内容の充実に向けて主体的に考え改善している意欲につながったと推察される。また、公的な研修の機会がない中、初任者や経験の浅い養護教諭の感染症対応等への疑問や不安に応え、共有できる機会にもなった。

2. 本学の教育・研究活動にと与えた影響

養護教諭の学びを知ることは、基礎を形成する上での大学教育と実践をつないでいくための学修の在り方を考えるうえでの貴重な機会となった。また、卒業後の支援につながり、広く現場の養護教諭との関係を作るうえでも有意義であった。

3. オンラインでの研修における評価と課題

教員の働き方改革等もあり、夏季休業中や週休日等での研修設定が難しくなっているが、それだけに週休日にもかかわらずの参加には学ぶ意欲を感じている。より参加しやすい日程を選択できるとよいと考える。講話等は、オンデマンド配信の形で後日活かせるとよい。

オンラインでの研修であれば、参加しやすいのではと考えたが、予想以上に参加者が自分用のPC・タブレット等を持っていないことに加えてオンライン開催での抵抗感があったことが伺えた。

教員は、学校のPCからではソフトを自由にインストールできないので、自宅等、個人所有の機器、スマートフォン、ネットワークから接続して参加することになる。参加者の通信環境や受信条件も考慮して企画する必要がある。

VII. 今後の課題、発展の方向

卒後1～6年目の養護教諭の参加者は全体の半数に満たない時もあるが、6年未満、7～9年、10年以上と経験年数が多様であることで、より広い視野での養護教諭の在り方を交流する機会になっていると考える。養護教諭に特化した本事業を実施することの意味は大きい。参加者自身が、実践の省察と同職種からの評価を得ることによって生まれる達成感や満足感は、スキルアップや養護教諭像を醸成するために必要なことだと感じる。今後も参加者と討論しながら更に養護教諭像の醸成を目指していきたいと考える。